



ゆに通信

創刊号 2012年1月8日発行

編集：NPO法人ゆに 事務局

ゆにを応援していただいている皆様

新年、あけましておめでとうございます。

いつもゆにを応援していただき、ありがとうございます。ゆには、昨年1月27日に設立し、まもなく1年を迎えます。皆様に支えられて1年間活動をする事ができました。ありがとうございます。2012年は、スタッフや会員の方々、ゆにを応援して下さる皆様と力を合わせて、より一層ゆにが飛躍していける年になるよう頑張っていきたいと思っております。

ゆにのミッションは、障害があっても、「したいことができる」「行きたいところに行ける」という想いを尊重し、同世代の友人としてサポートを提供することです。それを実現するために、ヘルパー派遣事業、障害学生支援事業、障害学生相談窓口、修学旅行支援事業を行っています。これらの事業をもっと充実させていきたいと思っております。これからも応援よろしく願いいたします。

平成24年1月8日

NPO法人 ゆに

理事長 佐藤 謙



重度訪問介護事業所 ゆに

～ ゆにの強みを活かして、障害学生のためのヘルパー事業 ～



皆様、新年あけましておめでとうございます！

ヘルパー派遣事業を担当しております、奥森結子です。

「重度訪問介護事業所 ゆに」の管理者兼サービス提供責任者をさせていただきます。初めての大事ですが、スタッフの皆さんと力を合わせて頑張りたいと思います。

昨年は大変お世話になりました。昨年 1 月 27 日に法人が設立して以降、皆様のご支援のおかげでようやく 8 月 15 日に京都府から居宅介護等事業所の指定をもらうことができました。ありがとうございました！



「ゆに」ヘルパー事業所の魅力を考える・・・

京都でもたくさんのヘルパー事業所がある中で、ゆにが新しくヘルパー事業を行う魅力とは何か？そんな課題を抱えながら、始まった 1 年でした。他の事業所にはない、ゆにの特色を活かせるような支援の在り方を事務局メンバーで話し合ってきました。

障害をもった学生さんへの支援の中でも、在宅生活での支援をやっていくのがゆにのヘルパー事業の目的です。“学生生活”といっても大学の中だけでなく、一人暮らしをしてみたり、通学したり、研究でフィールドワークに出かけたり、その時を過ごすためにはその場に合った支援が必要となってきます。

障害があっても、「学びたい」「人とつながりたい」という想いを尊重し、支援することで少しでも実現できることが、ゆにの使命ではないかと思っています。

▼ 昨年の春、立命館大学にて宣伝活動を行う



▲ 12 月 26 日 ゆに忘年会の様子

同世代による支援（ピア・サポート）

それを支えるのは同じ学生である、同世代の力です。支援学生も介護現場に触れ、障害をもった学生と会うことで新しい気付きや学びがあるはず。

そのため、介護ヘルパーの資格が取れる研修の開催に重きを置き、準備を進めてきました。

同じ“学生”という立場で、障害学生と支援学生がお互い支え合い、共に歩いていくことが、「自立」した大学生活や、その後の自己実現につながるのではないのでしょうか。

「重度訪問介護従業者養成研修」の開催！

▼ 第一回 重度訪問介護従業者養成研修の様子

＜重度訪問介護従業者とは・・・＞

重度の肢体不自由がある方に居宅介護・見守り・外出中の支援などを総合的にこなえる資格です。資格要件である、「重度訪問介護従業者養成研修 基礎・追加課程（全20時間）」を修了すると修了証明書が発行され、障害者自立支援法に基づく訪問介護の「重度訪問介護」に従事することができます。



講師は、大学教授や医師、看護師、理学療法士や介護福祉士の方々をお願いしています。また、地域で在宅生活をされる重度障害当事者の方々にも講座に参加していただき、受講生に生の声を届けられる、とても内容の濃い講義になっています。

3日間で資格が取れ、また受講料が学生5,000円（一般10,000円）と安いので、ホームヘルパーなど介護の勉強がしたい方、学生にオススメしています！今後も開催されるゆにの研修を受講していただき、ぜひとも資格を介護現場で活かしてほしいです。

2012年の目標は、“障害学生支援”を広げること！

障害学生にゆにのヘルパー事業所を利用していただけるよう募集する一方で、引き続き大学での介護者養成研修の開催を進めて、障害学生支援を京都で広めたいと思っています。

同世代の支援を行う“ゆにの魅力”をもっと引き出していけるように、2012年もたくさんのつながりと人々の力で、飛躍していける年にしたいと思います。皆様、今年も応援、よろしくお願いたします！

＜2012年の目標＞

- ・ 学生、同世代の利用者さんを募集。2名が目標。
- ・ 同世代のヘルパーを育成するため、学生向けの「重度訪問介護従業者養成研修」の定期開催と、立命館大学以外の大学でも開催をめざす。京都精華大学、花園大学など。年間100名の受講が目標。
- ・ 資格取得した学生が、実際にヘルパーで支援に入れるように、コーディネートする。

＜2011年の流れ＞

- ・ 8月15日、「重度訪問介護事業所ゆに」指定事業所の認可が降りる。
- ・ 9月11日、佐藤理事長が個人事業として運営していたヘルパー事業所「サポート・けん」を廃業し、NPO法人ゆにのヘルパー事業所「重度訪問介護事業所ゆに」へ業務を移行。
- ・ 9月12日より、佐藤理事長がゆに1人目の利用者さんとして契約。
常勤ヘルパー2名、登録ヘルパー10名でサービスの提供を始める。
- ・ 10月29～30日、ゆにで初の「重度訪問介護従業者養成研修」の開催。
- ・ 11月1日より、2人目の利用者さんと契約し、サービス提供を始める。
- ・ 12月17～18日、第二回「重度訪問介護従業者養成研修」の開催。
(・第三回「重度訪問介護従業者養成研修」は2月2日、4日に開催予定！)

以上

修学旅行支援、この春本格スタート！

修学旅行支援を担当しております前田和彦です。

ゆにでは、修学旅行で京都を訪れる障がいを持った学生の方への介助支援を行うサービス（略して「**修学旅行支援**」）を、この4月から本格的に開始します。

障がいを持った中高生の方に世代の近い大学生が介助支援（主に日中介助・入浴介助）をすることで、『学生の街・京都』をアピールし「大学生っていいな、京都っていいな」と感じてもらい、楽しい思い出を残してもらおうと同時に少しでも大学進学を進路の選択肢に考えてもらうことを目的としています。



【ゆにならでのポイント】

①学生スタッフのお兄さん・お姉さんが支援してくれる！

世代の近い大学生のスタッフが基本2名で介助支援を行います。

スタッフは事前にゆにで研修を受け、「重度訪問介護従業者」などの資格を持った者が必ず1名ついて介助を行います。保護者の方も安心して学生さんを修学旅行に送り出せます。

②事前に調査・情報提供してくれる！

旅行前にスタッフが観光予定地や宿泊先などを訪れ各施設のバリアフリー度を調査し、事前に利用者さんに報告します。

ゆにでは、学生スタッフが車イス体験をしながら観光地のバリアフリー度を調査する「モニタリングツアー」を昨年3度行いました。この調査結果も含め、既存の観光ガイド本や観光協会のホームページには載っていない、学生による学生のための『**ホントのところのバリアフリー情報**』をご提供します。



▲第3回モニタリングツアーの様子

(2011年10月開催)

③緊急時なっても心強い！

病院や自転車屋の位置（車イスのパンク対応）など、緊急時に必要な情報を事前にお知らせします。このような点も京都の大学に通うゆにのスタッフならではの対応です。

まずは肢体不自由者の中高生の方を対象にサービスを行っていきます。対象者は事業の展開に合わせて今後拡大していく予定です。

目標依頼件数はこの春4～6月で10件です！ゆにの新たな事業として、会員の皆様のご期待に応えられるよう頑張っていきますので、ご支援・ご協力よろしくお願い致します！

障害学生支援事業



ゆにを応援してくださっている皆様

はじめまして、障害学生支援事業を担当させていただいております中村と申します。

私のほうから、障害学生支援事業について説明と2012年に向けての活動の方向性を書かせていただきました。ご一読いただければ幸いです。

障害学生支援事業

障害のある学生さんって実際どのくらい通ってるの？

大学や専門学校には、いわゆる一般の学生の他に、海外からの留学生や働きながら来られている社会人など様々な人たちがおられるんですが、その中には、障害のある方も通われています。その具体的な人数としては、大学（短期大学部、大学院及び大学院大学を含む。以下同じ。）、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の数は「平成17年度5,444人⇒平成22年度8,810人」と、ここ5年間だけでも約1.5倍に伸びている…というデータがあがっています。（日本学生支援機構調べ）



大学からの支援ってどうなってるの??

この障害のある学生の中には、障害の程度によって何かしらの支援を必要としている学生もいます。しかし、大学の規模(学生数や大学自体の規模など)や障害学生支援の考え方の違いなどから、大学によって「支援の格差」が生まれている現状があるのではないかと。自分たちの大学時代の経験からそのようなことを考えました。



実際の学生さんの声って…

そして、ここ数カ月、いくつかの大学の障害学生本人や支援に関わる学生からお話を聞かせていただく機会があり、特に支援体制構築の過渡期である大学では「取りたい講義があるのに支援の不足から、内容がほとんど分からない」「同じサポーターが週に何度も支援に入っている」など、いくつかの課題を抱えているという声を実際に耳にしました。

Café・de・さぼーと

「学生同士」という交流の場

各大学で孤立してしまっている学生の方々に、「他大学の情報を知ってほしい、大学を越えて交流して欲しい」。そのような「交流の場」が作れないかと考えました。そこで、各大学に存在する「支援における課題や悩み」

「大学独自の取り組み」などの共有、障害学生支援に関わる学生同士の交流を目的とした「Café・de・さぼーと」を昨年11月末に開催しました。計28名の方にご参加いただき、各大学の現状や、障害学生、支援学生、大学職員など様々な立場からの意見交換、情報共有をしていただくことができました。今回、参加者の方からお聞きすることができた現状や課題、企画における反省も踏まえつつ、今後も活動をおこなっていきたいと考えています。



2012年に向けて

「Café・de・さぼーと」の参加の方々にアンケートを実施したところ、「今回の企画のような他大学の方と交流できる機会があれば嬉しい」という声を多数いただきました。それを受け、今後も「障害学生支援に関わる方々が交流できる場」を継続的に構築していきたいと考えております。また同時に、これまで障害学生支援に関わってこられた方との繋がりがそこから学びを深めていく必要性を感じています。「入学前⇒入学後・在学時⇒就職活動・卒業」など障害学生、もしくは支援に関わる学生や教職員にとっての大学生活での様々な場面で役に立つアドバイスをしてくださる方をゲストスピーカーとしてお招し、テーマに沿ったお話をさせていただこうと考えております。

障害学生相談窓口について

障害学生相談窓口を担当しております佐藤謙です。



大学には様々な障害を持ちながらも学んでいる学生さんがいます。ゆにではその方々のことを障害学生と呼んでいます。

京都は学生の街と言われるように、全国から学生が集まってきます。その中には障害学生もおられます。

障害学生相談窓口は様々な大学に在学されている学生さんや、これから大学に入学される障害学生さんを対象として相談に来られる障害学生さんが快適に学習や大学生活が送れるように、困っていることをお聞きし、アドバイスをこなっています。

私の経験を活かして

相談内容は大学でのサポートの確立、支援学生をどのように探していくのか、などです。大学生活は学習の面だけではありません。大学への登下校の問題や友達と外出するときのヘルパーをどのように確保するのかなど、多様です。そういった問題を相談に来られた障害学生さんと一緒に考えて、解決していきます。

私自身、重度障害者で6年間立命館大学に在学し、3年前に卒業しました。私が入学した当初、重度障害学生への支援体制が全くなく、最初のころは大変でした。ボランティアしてくれる学生さんを募集するためのチラシを作って配ったり、教授に了解を得て授業の終わりにマイクでボランティアの募集をしたりしました。

このような活動をしていく中で支援してくれる学生さんが徐々に増え、友達もでき、支援体制ができていきました。入学して2年後には支援してくれる学生さんと一緒に、障害学生を支援する団体をつくり、障害学生の支援を考えてくれるように働きかけました。こうした私の経験が、この相談窓口に来られた障害学生のお役に少しでも立てれば良いと考えております。

また、ゆにのスタッフの中には、私と一緒に立命館大学で障害学生支援に関わったメンバーや現在在学中で障害学生をサポートしている学生さんがいます。障害学生本人だけでなく、サポートしている学生さんの相談に乗ることもできます。

2012年の意気込み

昨年は窓口二人の障害学生さんに来ていただきました。今年は4月から大学に入学される学生さんからすでに依頼を受けています。

昨年は設立したばかりでバタバタしておりましたが、今年はじっくり相談に来られた学生さんと一緒に、充実した大学生活が送れるように考えていきたいです。



▲ゆに事務局メンバー
(いつでもご相談ください!)

ゆに学生スタッフ紹介 ～第1回・Mさん～

皆様、こんにちは。

立命館大学産業社会学部1回生Mです。

大学生になってから1ヶ月ほどたったある日、大学の講義で配られたチラシがきっかけでゆにを知り、今日では学生スタッフ、ヘルパーとしてお世話になっております。私はこれまで、修学旅行生の入浴介助、モニタリングツアー、ヘルパーなど初めての経験ばかりで何かと右往左往しましたが、多くの人に支えていただいたおかげで、大変充実した日々を過ごすことができました。

これからも、ゆにでの活動を通して私自身の見識を広げるとともに、障がいの有無に関係なく様々な人たちと関わるようにしていきたいです。また、これらに加えてゆにが一層躍進するために非力ではありますが、私にできることなら協力させていただきます。それでは、よろしくお願い致します。

編集後記

ゆに通信・創刊号、いかがだったでしょうか。第1回の総会から約半年、「会報はまだか」と思っておられた皆様、大変お待たせ致しました。

ただいまゆにの事務局は、第3回となる重度訪問介護従業者養成研修や春から始まる修学旅行支援など、様々な事業や企画を準備中です。また、各事業内容をわかりやすくまとめた当法人のパンフレットを鋭意制作中です。今年のゆには昨年以上に積極的に活動していきますので、どうぞご期待ください！

それでは、次回の会報もお楽しみに。 (前田)



NPO法人 ゆに <問い合わせ先>

〒603-8346

京都市北区等持院西町60番地10 (京福電鉄「等持院」駅徒歩5分)

TEL:075-468-1633 FAX:075-468-1666

E-mail kyotouni@gmail.com URL: <http://www18.atpages.jp/~npounikyoto/>